

4. 文献資料からの抜粋（リスクとハザードについて）

『遊びの力 ～遊びの環境づくり 30年の歩みとこれから～』

大村璋子、大西宏治、齋藤啓子、首藤万千子、関戸まゆみ共著、
萌文社、2009年7月

より抜粋

【リスクとハザードの考え方】 114 ページ

子どもの遊びにおける安全確保にあたっては、子どもの遊びに内在する危険性が遊びの価値のひとつであることから、事故の回避能力を育む危険性、あるいは子どもが判断可能な危険性であるリスクと、事故につながる危険性、あるいは子どもが判断不可能な危険性であるハザードとに区分するものとする。（中略）リスクを適切に管理し、ハザードは除去するように務めることを基本とする。

（国土交通省「都市公園における遊具の安全確保に関する指針」より抜粋）

【リスクとハザードの意味】 114 ページ

- ① リスクは、遊びの楽しみの要素で冒険や挑戦の対象となり、子どもの発達にとって必要な危険性は遊びの価値のひとつである。子どもは小さなリスクへの対応を学ぶことで経験的に危険を予測し、事故を回避できるようになる。また、子どもが危険を予測し、どのように対処すればよいか判断可能な危険性もリスクであり、子どもが危険を分かっていることは、リスクへの挑戦である。
- ② ハザードは、遊びが持っている冒険や挑戦といった遊びの価値とは関係のないところで事故を発生させる恐れのある危険性である。また、子どもが予測できず、どのように対処すればよいか判断不可能な危険性もハザードであり、子どもが危険を分からずに行うことは、リスクへの挑戦とはならない。

【安全性への配慮】 116 ページ

子どもたちはある程度危険性を内在している遊びに惹かれ、こうした遊びに挑戦することにより自己の心身の能力を高めていく。したがって、遊びの価値を保つためにはある程度の予知可能な危険、すなわちリスクが必要であるといわれている。こういう意味では、公園の事故を完全に防ぐことは不可能であり、むしろ不適切である。

しかし、子どもやその保護者が予測できない危険、すなわちハザードは極力取り除いていかなければならない。遊具の設計においては、重大な事故が発生しないように配慮する必要がある。維持管理においては事故防止を念頭においた実質的な点検が行われるようにしたい。また、利用者においても、とくに幼児や年少児童は危険予知能力や危険回避能力が不十分であるため、大人、地域住民が子どもを見守り、ときには注意することが必要である。

参 考

各委員からの感想

■ 石神 一代

回覧板の広報を拝見して応募したのですが、参加してみるとみなさんととても積極的に遊び場を通して地域のコミュニティを展開していこうと考えていることに驚きました。私も微力ながら経験したことが参考になればと思い、参加の都度、遊び場をつくることのリスクやメリットが伝わればとお話させていただきました。実際は、これからが大変だと思えますので、事業展開をしていく段階で計画倒れにならないようお手伝いできればと思っています。毎回、皆さんの意欲的なご意見を伺いながら計画していくことはとても楽しかったです。ありがとうございました。これからも楽しい遊び場をつくっていきましょう。

■ 川西 和子

子供たちが自然の中で遊ぶことがいかに大切であるかということを、今、危機感を持って感じないわけにはいかない。自然の恩恵の中で自発的な遊びの楽しさを体得して育った大人がシニア世代になっているからである。冒険遊び場は単に子供達だけの遊びの解放区に留まらず、大人からの文化の継承の場でもある。各公園が年齢に関係なく遊びを通して繋がる多世代交流の場になり、楽しい笑いの声が宮前区に広がることを楽しみにしたい。

■ 久保 浩子

長男が生まれてから、男の子三人を地域の仲間と一緒に、宮前区の公園の自然の中で育ててきました。宮前区大好きです。冒険遊び場支援要項ができて、同じ様に宮前区で遊び育つ子ども達が増えて、宮前区をふるさととして、大事に思ってくれるようになるといいなあと思います。

■ 佐藤 利枝

私自身が子育てをしていた頃は、羽根木や世田谷まで電車を乗り継いで遊ばせに通った冒険遊び場が、宮前区にできることを嬉しく感じています。子どもが外で遊ぶことが減った今だからこそ、この冒険遊び場が子どもの成長や子育てをする親にとって重要な役割を果たすことと思います。今後どれだけ関わられるかは分かりませんが、子どもたちの笑い声がたくさん聞こえる宮前区になるよう微力ながら頑張りたいと思います。

■ 永野 勝

区民会議から引き続いて、提案したことの実施計画の作成に参加できたことは良かったです。モデル事業で我々年配者は手出しをし過ぎたかもしれませんが、危険な遊びはやり方をしっかり覚えてほしいと思うからです。私の年少時代でも年上の先輩たちから教えられて挑戦したものです。若いお母さん方が積極的であるように思われますが、お父さん達も参加してにぎやかな冒険遊び場に育って行くことを期待します。

■ 本間 孝雄

元々、冒険遊び場という存在自体を知らない中で検討委員会参加となったので、環境を保全する会からの立場に加えて、冒険遊び場を一から知る素人目線も意識するよう心掛けたつもりです。1年間の議論を終えて、果たして自分の役目を全う出来たのか何とも自信がありませんが、今後、実際に活動していく人達の活躍に期待したいと思います。

■ 持田 裕次

冒険遊びと聞き自分が子供の頃を思い出すが、今の子供たちの置かれている状況はケガや自然保護を重視するあまり、かなり厳しい環境である事を実感した。しかも自然の遊びに慣れてない事から、周辺の自然環境を利用して遊ぶ術を知らないようである。浸透するまでには協力者やPRなど山積する課題はあるが、ぜひこれからはこの冒険遊びが宮前区の各地域に広まり自然の冒険遊びはもとより、新米ママの公園デビューや日頃子供と遊べない父親との交流の場が生まれる事を期待したい。また、そのためには自分自身も子供たちと一緒に楽しみながら協力をしていきたい。

■ 谷島 義雄

空を眺めて、出来るかな？雨が降っている。明日は冒険遊び場決行の日。不安であった。でも、これも冒険の一部かも知れない。そして当日を迎えた。会場になる公園に行ってみると、あちこちに昨夜の雨が水溜りとなって残っていた。そして、辺り一面落ち葉が地肌を覆っていた。子ども達が滑って転ぶかも知れない。それでも、怪我をしなければ良い体験になる。スタッフの人達が会場をセットする。ロープを張ったり、火を使う準備、シャボン玉を作る大きな道具、丸太を切ったり、ナイフを使ったり、釘を打ったりする道具が揃って、冒険遊び場が始まった。竹にあけた小さな孔に糸を通してブンブンゴマを作り、手で回したり、足で回したり。公園の斜面を滑り降りたり、ロープにぶら下がったり、燃える炎に手を近付けてみたりと、体を使っての冒険遊びが進んでいく。子ども達は大人の見守りの中で思い切り遊んでいた。屋外の自然の中で、その時々の変化に自分を合わせながら、思ったことを進めていく。自分の考えを、数ある方法の中から選びながら。今日のような体験が小さい時から少しでも多くできれば、必ず自分に自信がついて、そして毎日が楽しくなるに違いない。見守る大人達の思いがそこにあった。

■ 山岡 洋子

宮前区子どもの遊び場を考える会ポレポレでスタッフとして子どもの遊びにかかわるようになってから早や11年。その間に「やってみたい！」気持ちをしばませてしまう子ども、窮屈な思いで子育てしているお母さんを目にすることも増えました。「区民会議」の提案をうけて宮前区版冒険遊び場がこの度実現することで、子どもも大人ものびのびと過ごせる場、そしてそれを見守る地域の豊かなつながりができることを心より願います。

宮前区冒険あそび場支援検討委員会総括報告書

平成 23 年 3 月

発行：宮前区冒険あそび場支援検討委員会／宮前区役所
(宮前区役所企画課)

〒216-8577

川崎市宮前区宮前平 2-20-5

電話：044(856)3170／FAX：044(856)3119